

贈りものⅡ

YUKIKO OKADA CD+DVD-BOX

DISC 2 FAIRY *plus*

01. 風の魔法で...
02. Walking In The Moonlight
03. 目をさまして、Darling
04. 二人だけのセレモニー
05. 森のフェアリー
06. おしゃれな雨音
07. ストライプのジェラシー
08. Lady Joker
09. あなたを忘れる魔法があれば
10. ポップ・アップ・リセエヌ

plus

11. Summer Beach
12. PRIVATE RED
13. 星と夜と恋人たち

YUKIKO OKADA

DISC 2 FAIRY *plus*





YUKINO OKADA

007 FAIRY *plus*



from「二人だけのセレモニー」



贈りものⅢ

YUKIKO OKADA CD/DVD-BOX

DISC 2 FAIRY *plus*

01. 風の魔法で...

作詞:夏目 純 / 作曲:尾崎亜美 / 編曲:松任谷正隆

02. Walking In The Moonlight

作詞:三浦徳子 / 作曲:堀川まゆみ / 編曲:松任谷正隆

03. 目をさまして、Darling

作詞:康 珍化 / 作曲:馬飼野康二 / 編曲:松任谷正隆

04. 二人だけのセレモニー

作詞:夏目 純 / 作曲:尾崎亜美 / 編曲:松任谷正隆

05. 森のフェアリー

作詞・作曲:かしぶち哲郎 / 編曲:松任谷正隆

06. おしゃれな雨音

作詞:吉沢久美子 / 作曲・編曲:松任谷正隆

07. ストライプのジェラシー

作詞:三浦徳子 / 作曲:馬飼野康二 / 編曲:松任谷正隆

08. Lady Joker

作詞:吉沢久美子 / 作曲:堀川まゆみ / 編曲:松任谷正隆

09. あなたを忘れる魔法があれば

作詞:康 珍化 / 作曲・編曲:松任谷正隆

10. ポップ・アップ・リセエンヌ

作詞・作曲:かしぶち哲郎 / 編曲:松任谷正隆

plus

11. Summer Beach

作詞・作曲:尾崎亜美 / 編曲:松任谷正隆

12. PRIVATE RED

作詞:売野雅勇 / 作曲:山川恵津子 / 編曲:大村雅朗

13. 星と夜と恋人たち

作詞:吉沢久美子 / 作曲:MAYUMI / 編曲:松任谷正隆

01. 風の魔法で…

帰り路が短すぎる
足踏みして あと5回
おやすみには 明るすぎる
まじめすぎて 淋しくなる…

私の顔をのぞき込む
ドンカンなあなた
泣きまねの意味 解ってネ
だってうちはすぐよ…

Spring Tender Breeze
魔法かけて…
この路が迷路ならいいな
Spring Tender Breeze
魔法のように
花びらで路を消して迷わせてネ

話すことば…短かすぎる
だいじなこと はぐらかす
微笑む顔 明るすぎる
19時間 はなれるのに…

古い映画はこんな時
スポットが当たる
背伸びする意味 解ってネ
だって眠れないわ

Spring Tender Breeze
魔法かけて
赤い靴かかと足りないの
Spring Tender Breeze
魔法のように
重なった影の長さ恋のしるし

Spring Tender Breeze
魔法かけて
あの人の台詞ながくして…
Spring Tender Breeze
魔法のように
今夜 また僕の夢に君が咲くよ…

02. Walking In The Moonlight

ケンカした帰り道 遠回りをしたの…
パズルのよう割り切れない
こんな気持ちでは

帰れない 帰れない 空を見上げたの…
もしかしたらテレフォン・コール
してくれてるかも…

あなたが好き
そう でもね…でもね
もっと好きと言って欲しいの

女の子たち
そう なぜか不安
もっと好きと言って欲しい…

ブランコに揺れながら涙がこぼれたの
heartの海 嵐のよう
波が高くなる

あなたが好き
そう でもね…でもね
もっと好きと言って欲しいの

女の子たち
そう なぜか不安
もっと好きと言って欲しい…

walking in the moonlight
映画みたいに
春だというのに袴を立てて歩く…

あなたが好きよ
そう でもね…でもね
言いたくない今日の私は変ね

女の子たち
そう いつも不安
もっと好きと言って欲しい…

03. 目をさまして、Darling

彼女は秒読みしてるの
あなたを夢中にさせる日
巻き毛の髪 ちょっとスリムでキュートなライン
よそ見をしている彼を だれかしがって

あの子がOne Day わたし達の
グループにね 入った時からよ
男の子は くぎづけなの
まっすぐ瞳を見て 話す彼女

目をさまして、ダーリン 呼んだって
目をさまして、ダーリン すねたって
ただ合ツチを 返すだけ
うわの空なの

スクープ スクープ あの子が
あなたを映画に誘った
平気よって 笑顔つくってポケットの中
萼のハンカチ ぎゅっと握りしめたの

ドライブOne Day くじ引きして
悔しいけれど彼女 助手席よ
カーブのたび 悲鳴あげて
あなたの腕にきつく しがみついた

目をさまして、ダーリン 心配よ
彼女は、ねえダーリン ホンキなの
視線合うたび バックミラー
わたしにらむの

みんなが秒読みしてるの
わたしが泣き出すころねと
知らないのね 恋がピンチの時には涙
ふたつの心をつなぐ おまじないなの

彼女は秒読みしてるの
あなたを夢中にさせる日
巻き毛の髪 ちょっとスリムでキュートなライン
よそ見をしている彼を だれかしがって

04. 二人だけのセレモニー

あ…… 重ねた指の十字架でも
キラキラする…… なぜ?
ねえ…… 3本きりの花束でも
ときめいてる

キャンパスのお別れに 約束してたの
パーティーは2人だけ ともしたキャンドル

誘われて踊るのは
あなたが最初 決めてた
とまどいも卒業よ
あふれるほどに あなたが好き

目を閉じていい?
そして甘いセレモニー

あ…… 背中に届く私の指
ドキドキする…… なぜ?
ねえ…… 言えない言葉 あなたの背に
書いてもいい?

キャンパスのお別れに 小さなお願い
パーティーは2人だけ 見ないで星空

夢ならば さめないで
心の鍵をわたすの
お願いよ このままで
夢よりもっと あなたが好き

もう 怖くない
そして甘いセレモニー

誘われて踊るのは
あなたが 最初決めてた
とまどいも卒業よ
あふれるほどに あなたが好き

目を閉じていい?
そして甘いセレモニー

05. 森のフェアリー

森の木陰に緑色のシーツひろげ
眠りましょう 秘密なの
夢の国の扉
開きましょう こっそりと
バラ色 ファンタジア

森のまぼろし 翼ひろげ 風になって
遊びましょう 天使達
素敵な恋はどこ?
踊りましょう いつまでも
金色 ファンタジア

花になり蝶になって
恋人の口づけ待つ
私は森のフェアリーよ
誘惑するの…

日が暮れて道に迷う
恋人の心奪うの
私は恋するフェアリー

森のカナリア 春の光 空に集め
歌いましょう 逢えるまで
不思議な青い鳥
探しましょう どこまでも
虹色 ファンタジア

花になり蝶になって
恋人の口づけ待つ
私は森のフェアリーよ
誘惑するの…

日が暮れて道に迷う
恋人の心奪うの
私は恋するフェアリー

06. おしゃれな雨音

天気予報のダイヤル(朝から)
何度もまわしてるの
雨のデートになったって(とにかく)
それも素敵なこと

踊るから 見ていてね
水たまりでアラベスクを
つま先で かけよって
あなたの手をとって パドドゥ

透きとおったカサ まわした時に
わたしの心 透明になる
whm… このままずっと in the rain

天気予報がはずれて(突然)
空が輝きだした
歩道橋から見おろす(街には)
虹がわたってくわ

待っててね ハンカチで
髪のしずくをぬぐうから
受けとめて 投げキッス
コートの上にストライク

透きとおったカサ そっととじれば
あなたの気持ち 伝わってくる
whm… わかっているの in my heart

透きとおったカサ もう一度ひろげ
ふたりの未来 占ってみる
whm… このままずっと in your love

07. ストライプのジェラシー

もう話さないで 彼女のこと
何でもないこと 知ってはいるけど
もう話さないで 昨夜のこと
五月の風が ひやかすわ…

I love you ハートの中
スキとクライとが渦巻く

Kiss me darling みんなが
見ている前でね
Hold me darling お願い
思いっきり抱いて
Far away…
Far away…
ジェラシー

ねえ それから先 全部言って
彼女のベッドに腰かけたその先
ねえ 嘘はだめよ 隠さないで
ダーズリン 苦い昼下がりに…

I love you 自信がない
誰のせいでもないけれど

Kiss me darling 帽子を
斜めにいたずら
Hold me darling 真っすぐ
瞳を見ないで
Far away…
Far away…
ジェラシー

Good-bye…
Good-bye…
ジェラシー

08. Lady Joker

鏡に聞かなくても わかるの
わたしが いちばん きれいだって
いつだってもっと ときめきたいの
世界中から 男の子を誘惑

恋をeveryday 愛はanytime
わたしのすべてが欲しいなら
風に乗って 夜をとんで
海を越えてわたしのもと
会いに来て

愛してるって もう言わないで
あなただけの女の子じゃない
それよりも もっと きらめきたいの
銀河系から男の子をさらって

恋をeveryday 愛はanytime
わたしの未来が欲しいなら
星を止めて 時をぬけて
わたしのため歴史が変わる
時がくる

恋をeveryday 愛はanytime
わたしのため地球がまわる
日がくるわ

夜をonece again 夢でhold me tight
わたしのため地球がまわる
日がくるわ

09. あなたを忘れる魔法があれば

あなた以外の人となら
踊りたくはなかったから
ひとり抜け出した
棕櫚の庭を通りぬけ
だれもない浜辺

たまに会うとみんながいて
胸にためた言葉ふさぐ
そっと ハッピー・バースディ
背中越しに言ったから
聞こえないね きっと

銀の月が
ゆるる波を抱いてキスをしたわ
あんなふうがいいな いつか
奇跡なんて起るのかな

あなたのこと 胸の奥
忘れられる魔法があったら
zutto kokoro nurashi teta
涙なんて すぐに乾くのに

言えなかった言葉みたい
拾い集めた貝殻を
砂に埋めてみた
さびしいけれど 元の場所
みんなおかえりなさい

窓の灯り
遠くはしゃぎながらゆれているの
月の光 恋におちる
そんな魔法 彼にかけて

白い綿のワンピース
海の風を抱いてふくらんだ
marude muneni tamete ita
恋の涙 あふれるみたいに

あなたのこと 胸の奥
忘れられる魔法があったら
zutto zutto kakushi teta
涙なんて すぐに乾くのに
tukino hikari terashi teyo
忘れられる魔法があったら…

10. ポップ・アップ・リセエンヌ

恋におぼれたの 夏の海で
風に抱かれたの 少しだけ
リセのモラルが 乱れちゃうわ
私 哀しい ブロonzのハート

恋にめぐりあい 海のコテージ
砂に描きしるす 愛のメッセージ
さよなら初恋 リセのアバンチュール
私 明日 長い髪 Cut!

Pop Up Love Feeling
わかってきたの
夢がとびだす ドキ・ドキ・サイン
Pop Up Love Feeling
浮気なボーイ・フレンド
濡れたからだで 誘惑してね

夏は恋のヒーロー ロマンズ・ウェイヴ
浜辺のラブ・シーン シネマのコピー
リセの情熱が わかるかしら
私 いつか 花ひらくレディー

Pop Up Love Feeling
とりこになって
胸をくすぐる ワク・ワク・サイン
Pop Up Love Feeling
不思議な Seaside
恋のメロディー つづりましょう

Pop Up Love Feeling
わかってきたの
夢がとびだす ドキ・ドキ・サイン
Pop Up Love Feeling
浮気なボーイ・フレンド
濡れたからだで 誘惑してね

11. Summer Beach

Oh Summer Beach
小さな太陽ね あなたの瞳
熱い視線
眠ったふりして
パラソル越しに感じてるのよ

人魚たちの群れ…
原色が踊ってる…

何もかもを忘れて大胆になりたい
こんなに近くにいるのに何故
“I miss you”

Oh Summer Beach
まつ毛の白い砂
指先ではらってくれた
涙がこぼれる
“ごめんね” あなたを驚かせた

去年の水着の
跡も消えていくから

空がブロンズ色に染まる時間 待ってて
終わった恋にさよなら言いたいの

Oh Summer Beach
ゆうべは “ごめんね”
私が少しいけない

Loving Loving me
Loving Loving you
もうすぐ言える
波の音に負けないほど
“愛している”って言わせて

Oh Summer Beach
小さな太陽ね あなたの瞳
熱い視線
眠ったふりして
パラソル越しに感じてるのよ

12. PRIVATE RED

鏡の中 不思議な旅に出るの
恋をしてる切ない胸の黄昏れ時
時計仕掛け 金の林檎の陰から
誰なの 名前を呼ぶひと

ルージュを引く指先 震えて背中に
遠い視線 感じているの

PRIVATE あどけなさは
まだ 昨日のまま
PRIVATE 唇だけ
ああ 少し違う
とまどうほど綺麗な赤よ

青い鳥が羽根に触れたら消えた
振り向く空 あなたの声が遠去かるの
約束して ずっとそばにいと
不安な私を抱きしめ

初めてなの この恋 知らない世界よ
あなたなしじゃ 迷子になるわ

PRIVATE 夢見がちな
きっと女の子は
PRIVATE 鏡の国
ああ 愛に出逢う
微笑みから「少女」が消えて

PRIVATE あどけなさは
まだ 昨日のまま
PRIVATE 唇だけ
ああ 少し違う

PRIVATE 夢見がちな
きっと女の子は
PRIVATE 鏡の国
ああ 大人になる
唇から「少女」を消して

13. 星と夜と恋人たち

今 光と影がかさなり合っていくわ
空と海とあなたとわたしの気持ちみたい
ほら 大きな船に灯りがともっていく
水の上に浮かべたシャンパングラスのよう

ああ ふたりでまどろんでた
パラソル 午後の時を
いつまでも忘れないわ
ああ 真昼の夢の中で
はじめて くちづけした
ロマンス 胸に秘めてるの

今 夜のとばりが恋人たちをつつむ
焼けた肌とまつ毛に星がこぼれてくる
ねえ 波がそこまでうちよせてくるたびに
メゾピアノでつぶやくことば聞こえますか

ああ ひとつの恋のために
流され星になった
ギリシャの女神のよう
ああ アンドロメダ わたしもまた
愛する人はひとり
あなたと胸に決めてるの

もう少しきつく抱いてね
夜の風がわたしの髪をといていくわ

ああ ひとつの恋のために
流され星になった
ギリシャの女神のよう
ああ 今宵もあなたの手で
このまま胸に深く
抱かれて夜に沈むのよ

ユッコの笑顔が いつも励ましてくれる

株式会社サンミュージック
取締役社長

相澤秀禎

父親の反対を乗り越えての デビュー

今回のCD-BOXは本当にすばらしい企画だと思います。これが出ちゃたらもう後から出すものはないですから、まさに集大成ですね。

なかでも今回マキシシングルでリリースされた「Believe In You (2003 ストリングス・バージョン)」は、まるで息づかいまで聞こえてくるようです。目をつぶって聞いていると、スタジオのブースの中にユッコがいるんじゃないかと思えるほどでした。これを聞いていたら、昔のことが次々と思い出されました。

私がいちばん最初にユッコを見たのは、「スター誕生!」の地方オーディションのビデオでした。オーディションを見に行っただけのスタッフが、なかなかいい娘がいるよとビデオを持ってたんです。舞台の袖から出てくる横顔のそのイメージがとっても良くて、「面白いじゃないか、この娘をもらおう」ということになった。しぐさとか話し方とか声の質がすばらしく良かつたので。

たので。

ただ、最初は彼女の父親が許してくれなかったんです。県でも1、2の進学校に合格したら芸能界入りを許可するって言われて、彼女はすごくがんばってその高校に合格しました。83年の4月に高校に入学して、そのすぐ後に転校して東京に出て来ました。

実際会ってみたら、ビデオで見るよりももっと新鮮な印象でした。清潔感があるし、なかなかしっかりしたよい娘だと思っていましたね。年に似合わず、はっきり自分の意見を言える娘でしたし。それに、声に“あまさ”と“味”がありましたので、キャニオンの(渡辺)有三さんとも相談して、普通のアイドル路線ではなく、最初からちゃんとした“歌手”としてやっていこうと話しました。

だから、デビュー曲の「ファースト・デート」は、竹内まりやさんの曲がすごく新鮮で良かったですね。ユッコにピッタリ合っていました。ああ、これなら絶対大丈夫だろうって確信しました。ユッコ自身も、新曲をもらって嬉しかったのかすごく嬉しそうに顔して歌っていて、それがとっても印象的でした。ユッコにはどこか暗さというか陰があったんですが、「ファースト・デート」のときはその陰がなかった。

毎朝6時に起きてジョギング

当時、新人の子は私の家に下宿していたので、ユッコも高校を卒業するまでの3年間はうちに住んでいて、

毎朝一緒にジョギングをしたりしました。朝のジョギングというのは、彼女と話をする時間でもあったんです。毎朝必ず6時ぐらいに起こして、昨日はどうだったかっていう話をしながら走りますから、けっこう濃い付き合いですよ。出演したテレビを見て、もっとこうした方がいいとか、あの笑顔がよかったとか、思いついたことをいろいろ話していました。もちろん、デビュー後だんだん忙しくなって、彼女の帰宅が夜遅くなったときは無理させませんでしたけれど、それでも10時前に帰ってきたときは朝起こしましたので彼女も大変だったでしょうね。今思えば可哀想ですけどね。

そういえば、ジョギングもユッコらしかったですね。ユッコは絶対に僕を抜かないんですよ。どうしてだと聞くと、抜いちゃ悪いと思ってと言っていました(笑)。

お正月のある日、あの娘が寝坊して生放送のレギュラー番組に遅れそうになったことがありました。運転手を呼んでいる時間もなかったんで、私が寝巻きの上に洋服をひっかけたまま車を運転して、当時、有楽町にあったニッポン放送まで送ったこともありました。とても懐かしい思い出です。

また、忙しくて自由な時間があまりなかったせいか、仕事でスイスへ行って来たことがすごく嬉しかったようで、うちに帰ってきてもスイスの話ばかりしていました。もし私が歌をやめていたら、もう一度スイスに行って、そこ

でいろんな絵を描きたいとか詩を書きたいとか言っていました。ユッコのお墓にはそういう詩があるんですけど、なかなかいい詩ですよ。ほんとに感受性が豊かな文学少女でした。

アイドル全盛時代

ユッコがデビューをした84年はアイドル全盛時代で、今のようにつどんなタレントが売れるか分からないというのではなく、1年にひとり、会社全体でこの娘で行こうというのを決めてデビューさせていました。80年の松田聖子、82年の早見優、そして、84年が岡田有希子です。デビューが決まると、彼女を中心にプロジェクトが動き出すわけですが——音楽制作の部門は音を作って、マネージャーはプロモーションをしてというように、全社をあげてひとりのタレントを育てていく。民放各局のオーディションを受けて、テレビ局の歌番組に売り込んで、雑誌に露出をして、地方をまわって、とアイドルのプロモーションのパターンはある程度決まっていたから。

ただ、年末の新人賞レースは売り込みが今よりも大変でした。私は正直な方なので、あまり自信がないものを良いように話せないんですね。でも、その点で岡田有希子は自信をもって売り込みました。だから、「ユッコが」「ユッコが」って売り込みに行くのが楽しくて、寝ても醒めても「ユッコ」「ユッコ」と言っていていましたね。結果、ユッコはもちろん、スタッフのが

んばりが実って暮れの日本レコード大賞で最優秀新人賞を獲得することができました。

有希子から法子へ

私の社長室の壁には、岡田有希子のパネルが飾ってあるんです。うちにはたくさんタレントがいるので、いっさい私の部屋にはタレントの写真を飾らないことにしているんですが、岡田有希子だけは永遠にうちの会社のタレントという意味も込めて飾っているんです。そのパネルには、「to のりっぺくんへ 1986.4.5」と書いてあります。

これは、ユッコが3月に高校を卒業して私の家を出たあとで、酒井法子が新人として福岡から私の家に来た4月5日に、たまたま晩御飯を食べに来ていたときに書いたものです。法子がサインをお願いしてパネルに書いてもらったんですね。

法子が席を外したときに、ユッコが「私このままやっっていけるかしら」なんて弱気なことを言うから、「何言ってるんだ。君はサンミュージックの柱になるんじゃないか」と言ったら、「だってあの娘がいるじゃないですか。あの娘もすごくいいですよ」なんて言っていた。普通に、いい新人がいるじゃないのっていう意味なんでしょうけど、4月8日の3日前のことですから、今思うと、何か運命的なものを感じますね。

もっといろんな花を咲かせて欲しかった

ユッコはなんでも出来る子でしたから、20歳になったらこんな風になって欲しいと思うことはありましたね。まだまだデビューしたばかりでしたから、女優ということは念頭にはなかったですが、これから3年4年たって22歳になったらちゃんとしたドラマをやる女優さんになってほしいとか、ミュージカルのものをやらせたいとか、夢と可能性はいっぱいありました。また、ユッコは絵を描きたいとか、詩を書きたいとかよく言っていましたから、今の時代であれば、自分で詩や曲を作ったり、エッセイのような本を書いたりもできたでしょうね。彼女だったらもっともいろいろなことが出来たのになあと思います。

私は、いつもユッコの写真を机の横に置いているんですよ。笑っている写真なんですけれど、どこか目元が寂しそうでね。ユッコが僕に「がんばっていいタレントをいっぱいだせよ」って言っているようにも思える。写真を見るたびに、この子を超越するような歌手を早く作りたいとか、この17年間ずっとそのことばかりです。苦しいときなんかは、今でも18歳のままのユッコの笑顔が励ましてくれる。私のなかには、ユッコがいつもいるんですね。それはきっと、ファンの方々も同じだと思います。まるで昨日のこのことのような感じです。

スキップして 迎えに来た少女

株式会社サンミュージックプロダクション
取締役専務

福田時雄

有希子は出てきただけで スターだった

有希子を最初に見たのは、「スター誕生!」の名古屋での予選会でした。その頃のスタ誕は、審査員が点数をつけるのではなくプロダクションやレコード会社の担当者が客席にいて、ステージで歌っている出場者がいいと思ったらボタンを押し、その人数が基準に達すると合格というシステムでした。僕は、佐藤佳代がステージに出てきただけで思わずボタン押しちゃったんです。並んで座っていたプロダクションの人なんか「押して、押して」って言ってすぐ合格になっちゃった(笑)。そのくらい良かったんです。歌なんかどうでもいいと思いましたから。実際、歌を聞かずにボタン押ししましたしね。第一印象でパッと決まったのは桜田淳子以来かな。ステージに立った瞬間に、とにかく違うオーラがあったんです。阿久悠さんが、「かわいいだけで天才だ」って言ってたけれど、まさにその通り。ステージに彼女が出てきただけでスターでしたよ。それですごい印

象に残っていたんです。

スタ誕は予選会の次の段階として、決戦大会の下見会というのがあるんです。決戦大会は水曜日で、その前の土曜日に別なスタジオに集まってもらい、ピアノの伴奏で歌ってもらったり、希望があったら別の曲を歌ってもらったり、いろんなことを質問したりするんです。ところが、その決戦大会に佐藤佳代が出てこなかったんですよ。その時の下見会では、うち(サンミュージック)の制作部長とキャニオンの方が、千葉から出場していた娘を指名したいんだけどどうだって聞いてきたんですが、僕は「佐藤佳代っていうのが今回出てないんだけど、もし次の回に出てくるようだったら今回は見送った方がいいんじゃないか?」って言っちゃったんです——今でも、あのときよけいなこと言わなければ有希子の運命も違っていたかなって思うんですけど——。それならというので、改めて日テレからビデオを借りて、佐藤佳代を見たら、ふたりとも「やっぱり佐藤佳代に決めましょう」と千葉の娘をやめちゃったんです。

その後で、何で決戦大会に出てないのかと聞いてみたら、お父さんが反対しているというんです。それで、日本テレビの金谷さんと一緒に名古屋まで父親をくどきに行ったんですよ。そうしたら、有希子が金山の駅に嬉しそうに迎えに来ていて、スキップして自分のうちへ案内してくれたんです。それがすごく思い出されてね。珍しいです

よ、スキップですよ? きっと、よっぽど嬉しかったんでしょうね。それで、お父さんといろいろ話したんですが、やはりなかなか賛成してただけなくて……。なんとか最後には賛成してくれたんですが、「絶対にスターにするという約束はできないけれど、3年間だけ預けてください。3年経って不幸にして売れなくてお返しするときも、佳代は本当に立派ないい子になったなって思っていただけのお返ししますから」って言ったの覚えています。でも、スターにはなったけど、あんな形でお返しすることになるうとは……。

奥さんのいらっしゃる方は 半分の愛情をください

デビューさせるにあたっては、彼女のイメージをどうしようかっていうのが、いちばんの難しいところでした。正統派アイドルという感じでしたので、とにかく新人賞を獲得のを最初の目標に、2年ぐらいは本当に歌だけに専念しました。だから、ドラマに出るのも遅かったんです。

デビュー前に、キャニオンの各地方の営業所に挨拶回りをしたんですが、最初は、「○月○日に○○○○という曲でデビューしました○○○○です」というようなマニュアル通りの挨拶をしていたんです。そこで、「相手はレコード会社の人なんだからまともな挨拶じゃつまらないよ。レコード会社っていうのは東京だけじゃなく札幌にも仙台にもセールスマンがい

で、それぞれに家族がいて、みんなあなたのレコードを売って生活しているんだから、そういう人たちに大人の挨拶と違っていいから、岡田有希子っていうのがどういう人間かわかってもらうために挨拶に行くんだよ」って、新幹線とか列車の中で話したんです。そうしたら、仙台の営業所で「奥さんのいらっしゃる方は半分有希子に愛情をください。恋人のいらっしゃる方は3分の1でも良いから有希子に愛情をください」ってみんなの前で言ったんです。僕はたまげちゃった(笑)。そうしたら、キャニオンの若いセールスマンが「僕は女房も恋人もないから100%の愛情をあげます」って立ち上がって言いました。そりゃ若いセールスマンしびれますよね(笑)。

そんなでしたから、スタッフにも可愛がられていました。レコード会社の人にも、キャンペーンなどで地方に行ったときなんかよくなつていましたね。

仕事で北海道に行ったときに、街を歩いていて有希子がステーンって転んだんですよ。そしたらそのまま道路で大の字になって起きあがってこない。「大丈夫か？」って聞いたら、「星がきれい・・・」って言うんです。「負けず嫌いだな、この娘」って思いましたね(笑)。大物というか気が強かった。だいたいそういうのがないタレントは売れないものですから、逆に僕なんか嬉しくなっちゃいました。そ

れに、有希子はマイペースでしたね。同期のアイドルたちにもこっちはもっとライバル意識を持ってほしいのに、全然そういうのがなかったと思います。ある時、「テレビ番組なんかであがっちゃった時はどうする？」って聞いたら、「今日はダメだな、この次うまくやればいいやって諦めるんです」って言ったんですよ(笑)。僕の方がすごい参考になりましたね。

マスコミでも評判良かったと思いますよ。お行儀よかったですからね。ただ、調子いい子じゃなかったから、人によっては取材しにくかったかもしれないですね。アイドル誌だといいいけれど、新聞とかになると意地の悪い記者がいて、わざと怒らせて本音を言わせようとしてたりすることがあるんですが、そんな時でも有希子はヒョウヒョウとかわしてしていました。

ファンに有希子のすばらしさをあらためて教えられた

とにかく音楽祭が盛んな時期で、新人賞を争っていた相手が吉川晃司君だったんです。ところが、有希子は新人賞を獲って嬉しそうにする時と、喜ばない時があるんです。ふたりで新人賞を獲ると素直に喜ぶんですよ。でも、吉川晃司を差し置いて自分だけが最優秀新人賞を獲るとすごく浮かない顔をするんです。たしかに、会場は吉川君のファンの女の子がいっぱいでキャーっていう声援が響いていたから、自分だけが獲っちゃ申し

訳ないなっていう気があったんでしょうか。ひとりで獲ったときには1回も嬉しそうに顔したことがなかったですね。人によっては、泣いて抱きついてくる子もいるんですけど、絶対喜ばなかった。他の新人の子とはかなり変わっていたと思います。新人賞はプロダクションとかレコード会社の力で、自分の実力じゃないと思っていたのかもしれない。とにかく頭いい子でしたから。

彼女が亡くなってもいぶん経ちますが、今でも熱心なファンの人たちが命日にはお花を供えてくれたり、何年か前には自分たちの撮った写真を集めて写真展を開いてくれたりしたんです。その写真展を見に行くと、あらためて有希子はすごい子だったんだなって認識しました。

それにしても、あの嬉しそうにスキップしていたときの有希子は今でも忘れられませんね。



「Summer Beach」



from 「Summer Beach」

〈取り扱い上のご注意〉ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。／ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。／ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。／ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。〈保管上のご注意〉直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。／ディスクは使用后、元のケースに入れて保管して下さい。／プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。